

## 在住外国人及び留学生を対象とした生活状況等の調査結果（概要）

在住外国人に対する総合的・効果的な多文化共生施策検討の基礎データとするとともに、岡山県外国人材等支援推進計画の策定に活用するため、在住外国人の生活状況及び外国人留学生の進路等に関する意識について調査し、その結果を取りまとめた。

### 1 調査の方法

項目	在住外国人生活状況調査	留学生の進路等に関する意識調査
調査対象	在住外国人（18歳以上、特別永住者除く）のうち、市町村ごとに一定割合で無作為抽出した3,000人	外国人留学生を受け入れている大学、専門学校、日本語学校等に在籍する外国人留学生約4,000人
調査方法	Web回答（10言語対応）	Web回答（やさしい日本語、英語）
調査期間	令和7年5月30日～6月20日	令和7年6月30日～7月18日
調査項目	日本語能力、仕事、子育て・教育、日常生活、困りごと等 計66問	学校、日本語能力、卒業後の進路、アルバイト等 計52問
回答数 (回答率)	1,340件（46.1%）	645件（16.1%）
過去調査	平成21年度、平成29年度に実施	今回初めて実施

### 2 調査結果の概要

#### (1) 岡山県在住外国人生活状況調査

##### ア 基本属性について (P3～8)

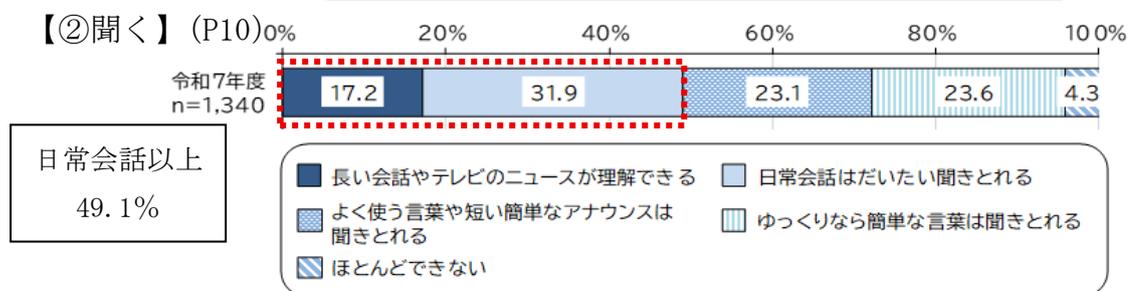
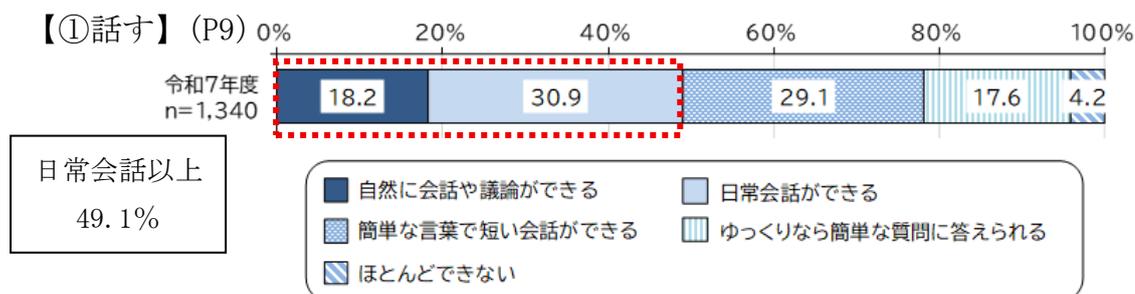
(n=1,340)

①性別	男 49.2%	女 49.6%	答えたくない 1.2%			
②年齢	20代以下 48.4%	30代 28.8%	40代 11.5%	50代 7.0%	60代 3.0%	70代以上 1.3%
③国籍	ベトナム 35.0%	中国 16.9%	インドネシア 13.8%	フィリピン 9.2%	ミャンマー 6.6%	その他 18.5%
④在留資格	技能実習 29.0%	永住者 17.8%	特定技能 17.1%	技人国(※) 11.8%	留学 9.6%	その他 14.7%
⑤県内在住期間	4年未満 53.7%	4～5年 13.8%	6～10年 13.8%	11～20年 10.1%	20年以上 8.7%	
⑥居住市町村	岡山市 42.5%	倉敷市 20.4%	総社市 4.8%	高梁市 3.0%	瀬戸内市 3.0%	その他 26.3%

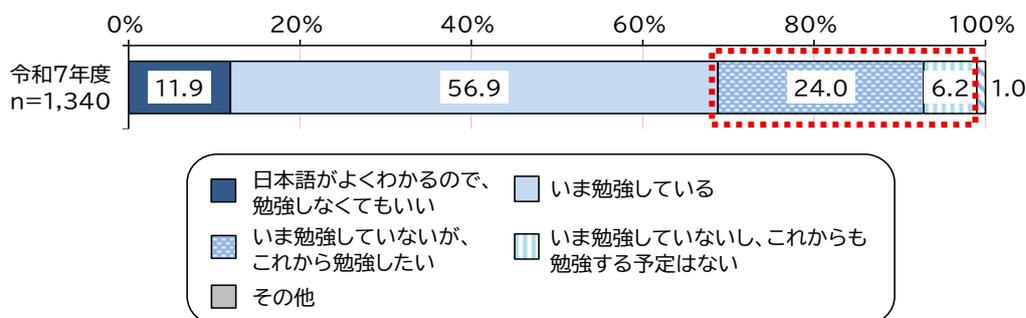
※技術・人文知識・国際業務の略

## イ 日本語能力について (P9~17)

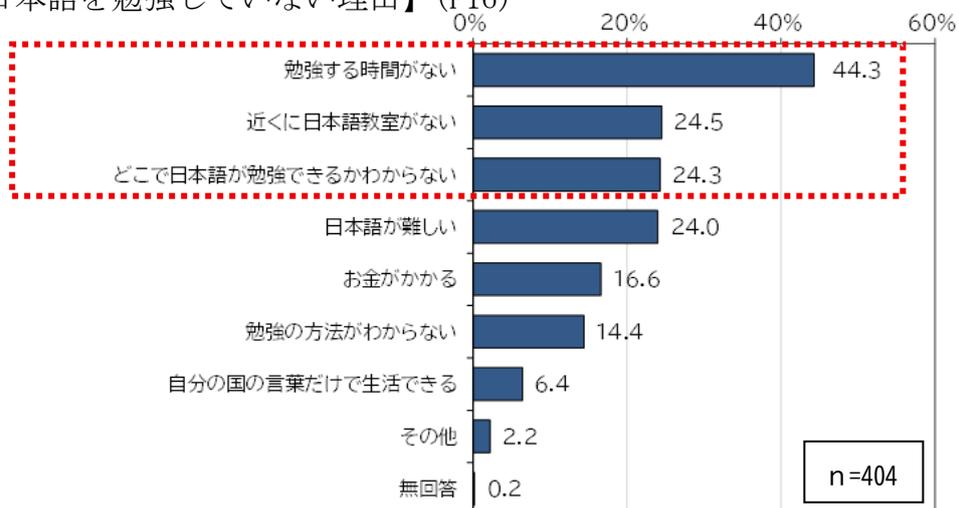
日常会話レベル以上の日本語能力がある割合は、5割弱となっている。また、現在、日本語を勉強していない割合は約3割であり、理由としては、「勉強する時間がない」が最も多く、次いで「近くに日本語教室がない」「どこで勉強できるかわからない」の順となっている。



## 【③日本語学習に対する意欲】 (P14)



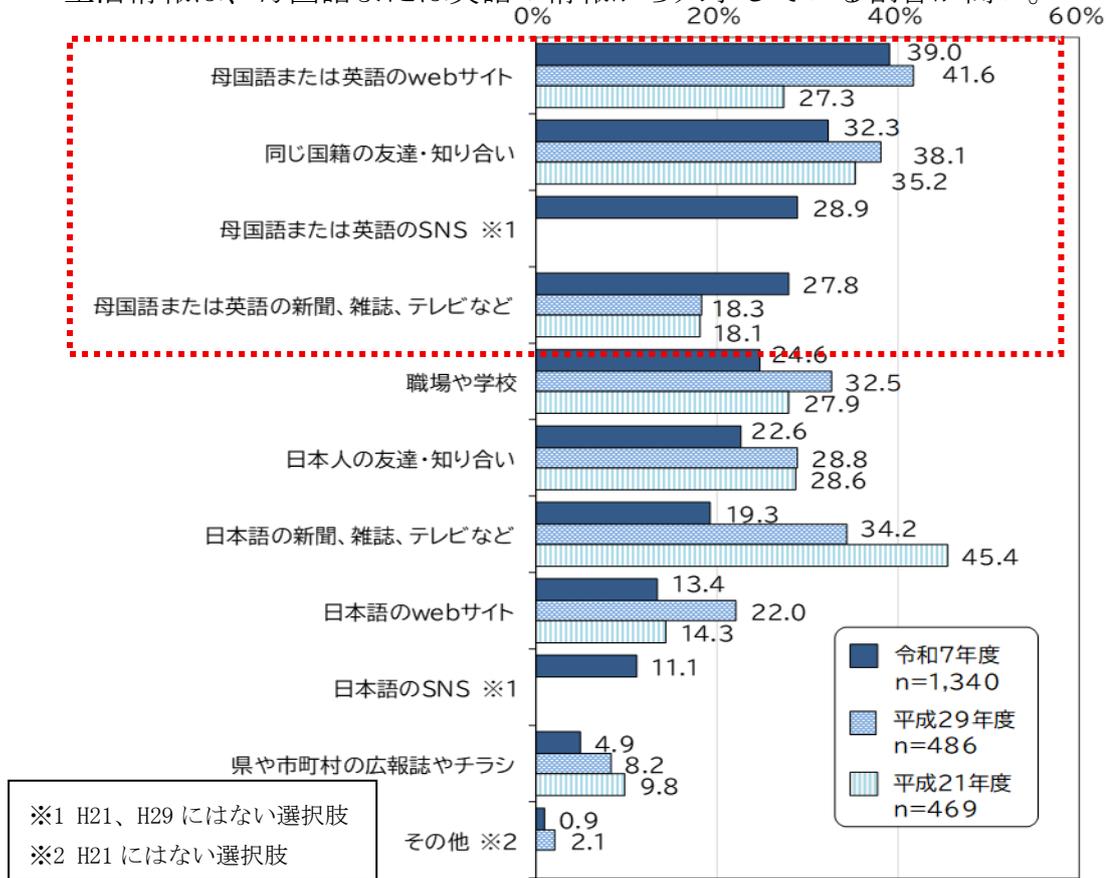
## 【④日本語を勉強していない理由】 (P16)



ウ 日常生活について (P48~56)

【①生活情報の入手先】 (P48)

生活情報は、母国語または英語の情報から入手している割合が高い。



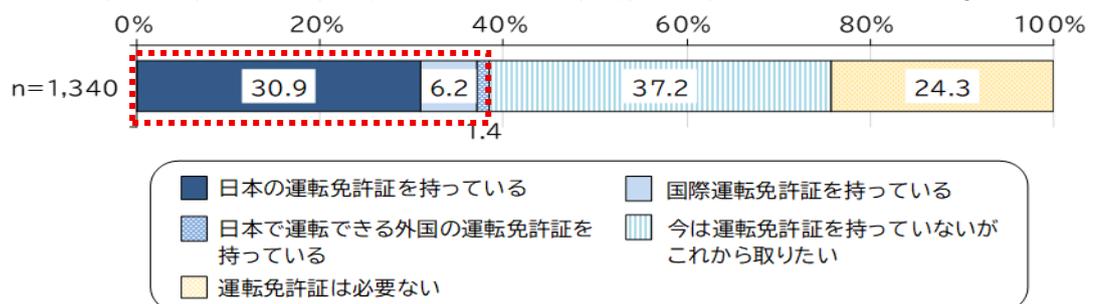
【②よく使うSNS (主なもの)】 (P50)

(n=1,340)

Facebook	LINE	TikTok	Instagram
62.5%	50.1%	38.4%	26.6%
ベトナム、フィリピン、ネパール、ミャンマーで利用率は9割前後	韓国で約8割の利用率、また全国籍で5割前後の利用率がある	突出して利用率の高い国籍はないが、ベトナム、インドネシア、ネパールで高い	インドネシアで7割以上の利用率

【③運転免許証の有無】 (P54)

日本で運転可能な免許を持っている割合は4割弱となっている。



【④遠方への移動手段(主なもの)】(P55) (n=1,340)

選択肢 (主なもの)	電車	自転車	バス	自家用車
回答割合	61.9%	48.6%	39.1%	31.6%

エ 困りごとや相談について (P57~66)

普段の生活での困りごとについて、多く回答があったのは、「お金のこと」(31.5%)、「言葉が分からないこと」(30.5%)、「仕事のこと」(20.2%)、「習慣、文化の違い」(16.7%)となっており、言葉や習慣、文化の違いは、地域トラブルの原因としても上位に挙げられている。

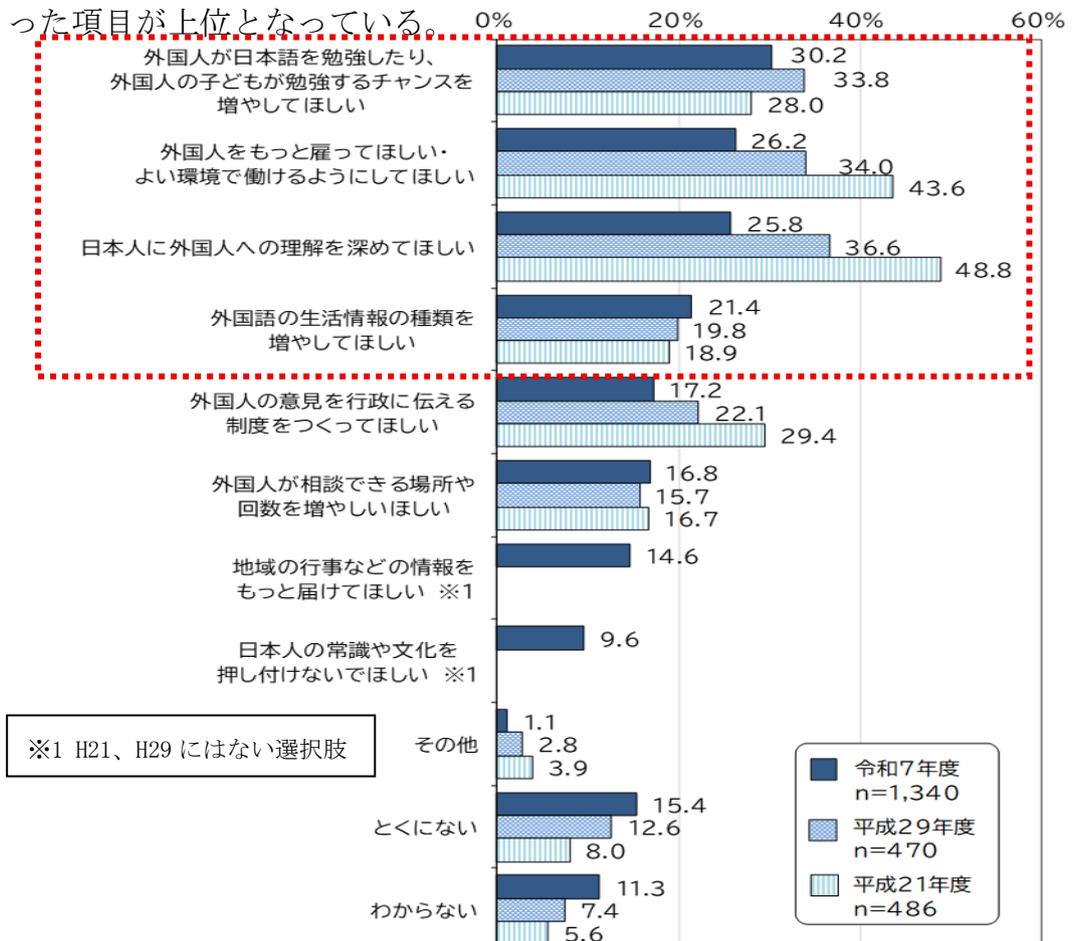
【①地域でのトラブルの原因(主なもの)】(P59) (n=1,340)

日本人が外国人の生活習慣や文化に理解がない	お互いに言葉が通じない	外国人が日本の習慣や決まりを理解していない	お互いにコミュニケーションをとらない
4.2%	3.7%	3.1%	3.1%

※地域でトラブルの経験ありと回答した19.0%の内数

【②共生のために必要なこと】(P65)

日本語学習の機会や、雇用環境、異文化理解や多言語での情報提供といった項目が上位となっている。



## オ 地域活動への参加について (P67~71)

参加している地域活動では、「特にない」(62.1%)が最も多いが、そのほかでは、「お祭り・イベント」(22.3%)、「スポーツ」(13.5%)などが上位となっている。また、地域活動に参加しやすくするために必要なことについては、「開催日などの情報の周知」、「休みの日に実施」、「近くで実施」などの回答が上位となっている。

### 【地域活動に参加しやすくするために必要なこと(主なもの)】(P69)(n=1,340)

開催日などの情報を知らせる	休みの日に実施する	近くで実施する	同じ国の人や言葉が通じる人が参加する
42.2%	41.8%	30.0%	20.1%

## カ 行政、支援団体のサービスについて (P72~78)

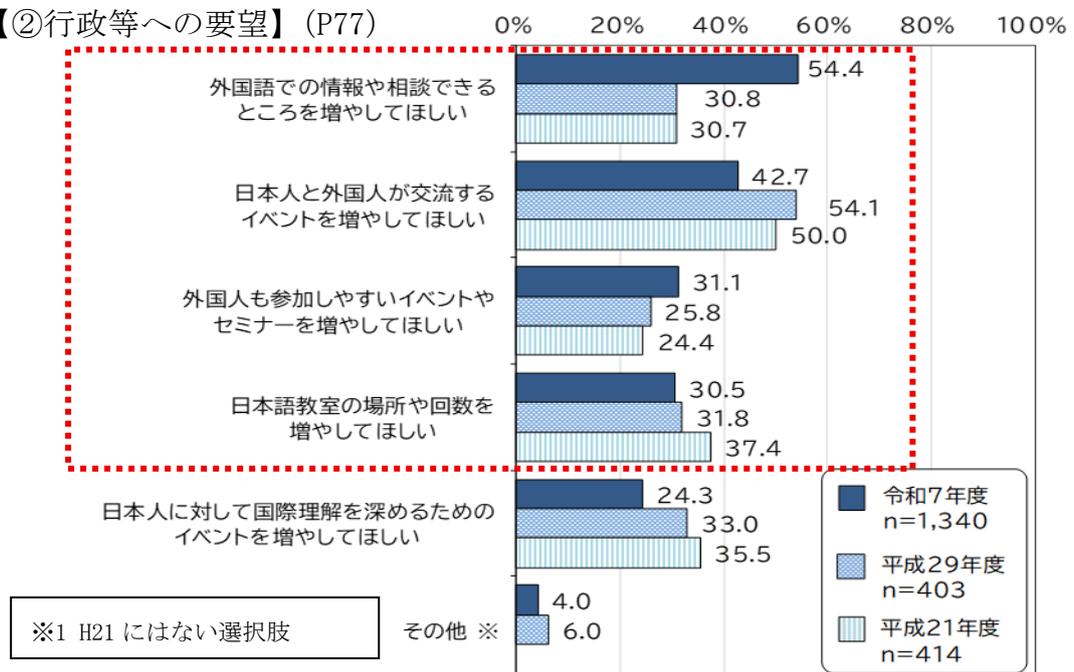
県運営のものも含め、行政が運営するwebサイト等の認知度は低い。

また、行政等から欲しい情報では、「就職や仕事」(28.4%)、「税金や年金」(26.3%)、「日本語学習」(19.7%)、「相談窓口」(17.5%)が上位となっており、行政等への要望についても、相談窓口、交流イベントやセミナー、日本語学習に関することが3割を超える割合となっている。

### 【①行政等が運営するwebサイト等の認識(主なもの)】(P72) (n=1,340)

知っているものはない	外国人生活支援ポータルサイト(法務省)	岡山県webサイト	岡山県外国人相談センターwebサイト
65.5%	11.6%	6.6%	6.4%

### 【②行政等への要望】(P77)



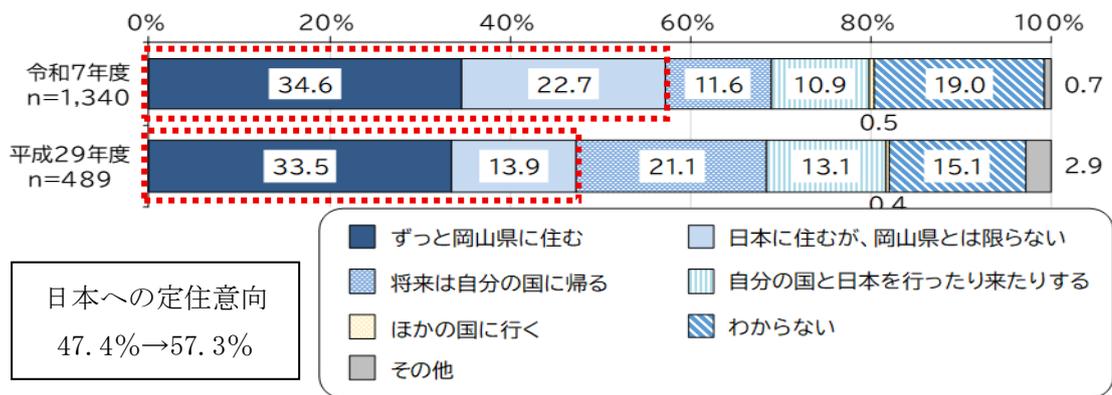
キ 岡山県での生活について (P79~86)

【①岡山県に住もうと思った理由(主なもの)】(P79) (n=1,340)

災害が少ない	働きたい会社があった	家族、親戚、友達が住んでいた	東京や大阪などの大都市より物価が安い
33.7%	32.2%	24.2%	16.2%

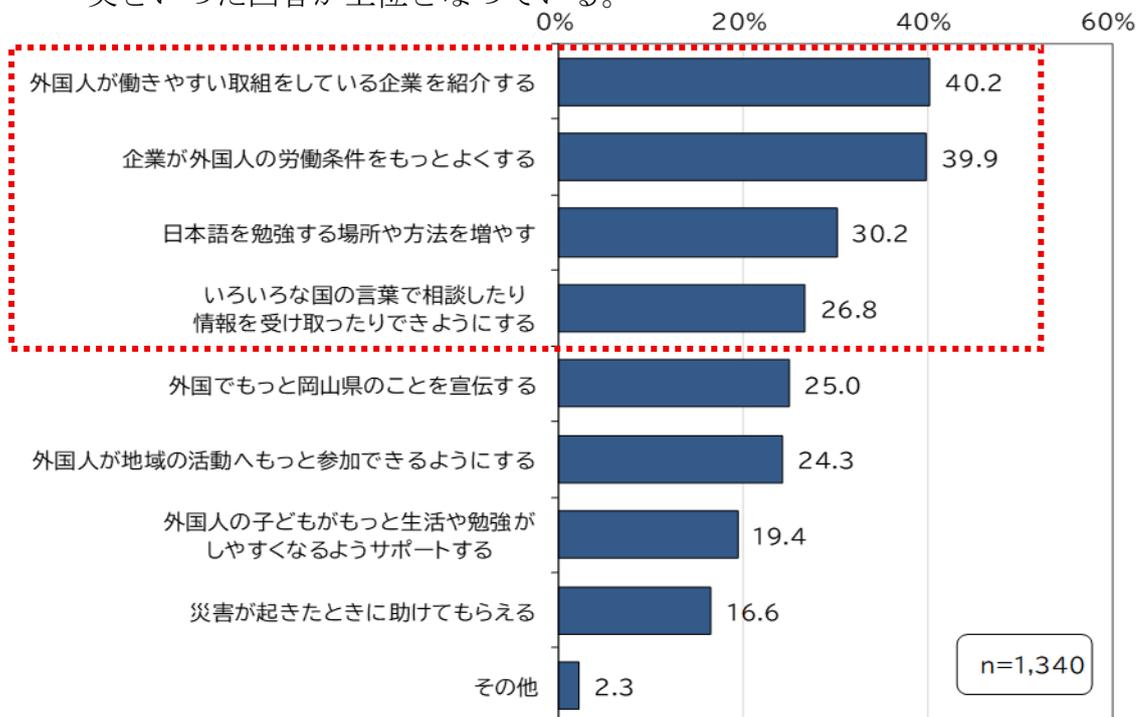
【②今後の日本での在住】(P81)

前回調査に比べ、日本への定住の意向が強まっている。



【③岡山県が外国人から選ばれるために必要なこと】(P83)

仕事や労働条件に関するもののほか、日本語教育や相談・情報提供の充実といった回答が上位となっている。



## (2) 岡山県留学生の進路等に関する意識調査

### ア 基本属性について (P3~7)

(n=645)

①性別	男 50.1%		女 48.5%		答えたくない 1.4%	
②年齢	20歳以下 18.8%	21~22歳 20.9%	23~24歳 19.7%	25~26歳 16.1%	27~29歳 10.4%	30歳以上 14.1%
③国籍	ミャンマー 29.1%	中国 27.1%	ベトナム 13.2%	ネパール 10.9%	バングラデシュ 5.1%	その他 14.6%
④居住市町村	岡山市 89.1%		倉敷市 7.4%		その他 3.5%	

### イ 学校について (P8~18)

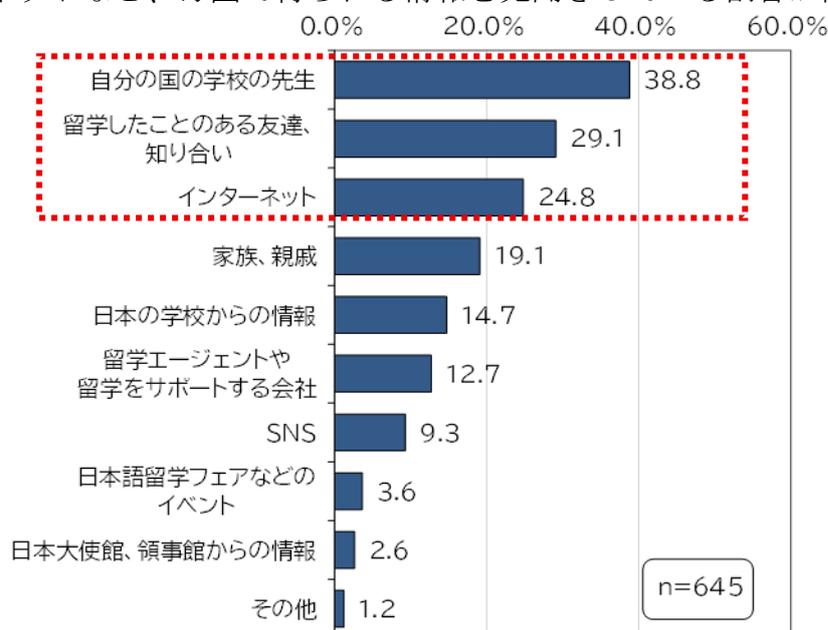
#### 【①通っている学校の種類(主なもの)】(P9)

(n=645)

日本語学校	専門学校	大学院	4年制大学	その他
42.2%	22.0%	19.7%	14.6%	1.5%

#### 【②留学先を選ぶときに見聞きした情報】(P12)

留学先を選ぶ際には、自国の学校の先生、留学経験のある友人、インターネットなど、母国で得られる情報を見聞きしている割合が高い。



#### 【③留学先を選ぶときに重要なこと(主なもの)】(P14)

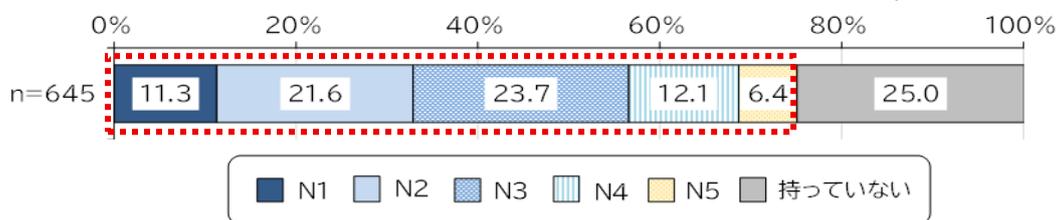
(n=645)

勉強したいことが学べる	卒業後の就職先が多い	奨学金がもらえる	有名な学校である
62.9%	41.6%	27.9%	20.6%

ウ 日本語能力について (P19~26)

【①日本語能力試験 (JLPT) の資格取得】 (P23)

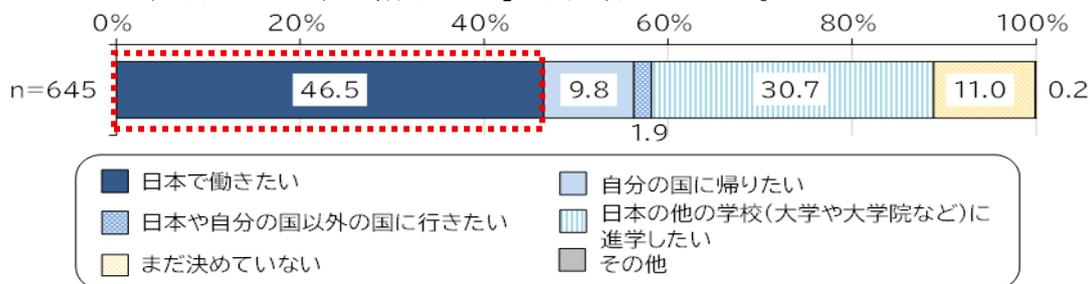
75%が日本語能力試験のいずれかの資格を持っている。



エ 卒業後の進路について (P27~34)

【①卒業後の希望進路】 (P27)

5割弱が「日本で働きたい」と回答している。

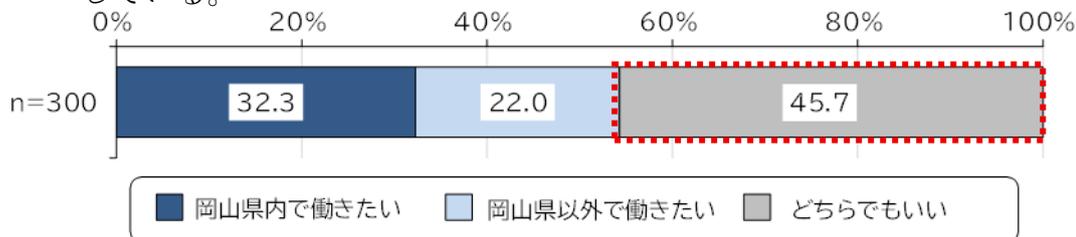


【②働く会社を選ぶときに必要なサポート(主なもの)】(P31) (n=300)

就職活動のスケジュールやルールを知りたい	留学生の採用に積極的な会社を知りたい	仕事で使う日本語を知りたい	日本のビジネスマナーを知りたい
41.7%	40.3%	33.7%	33.0%

【③岡山県内の会社への就職意向】 (P32)

「県内で働きたい」は約3割だが、5割弱が「どちらでもいい」と回答している。



【④岡山県内で働きたい理由(主なもの)】(P33) (n=97)

岡山県は生活しやすい	災害が少ない	働きたい会社がある	県内に家族や友達がいる
69.1%	34.0%	32.0%	26.8%

オ 日常生活等について (P35~48)

【①アルバイトをする理由 (主なもの)】 (P38)

アルバイトの経験では、7割強の学生が「経験あり」と回答しており、理由としては、「生活費を稼ぐ」や「学費を稼ぐ」が多い。(n=464)

生活費を稼ぐため	学費を稼ぐため	日本語や日本社会を学ぶため	趣味や旅行に使うため
56.0%	21.8%	12.5%	7.8%

【②イベント情報の入手先 (主なもの)】 (P40)

地域イベントに参加経験のある割合は3割強であり、イベント情報の入手先としては、学校やインターネットが多い。(n=206)

学校(先生からの情報など)	インターネット	日本人の友達や知り合い	SNS
63.6%	31.6%	30.1%	28.2%

【③行政や学校にしてほしい支援】 (P46)

奨学金や進路支援のほか、日本語学習やイベント情報などの回答が上位となっている。

